

生活協同組合パルシステム神奈川 (麻生センター)の取組

空きスペースを活用して地域の人が気軽につどう、つながる、ささえあう。
地域の様々な人ができることを持ち寄って、みんなで育てるあたたかな居場所づくりの取組

取組の概要

- 「みんなでゆっくりCAFE♪」と「ゆっくり健康マージャン」を、それぞれ月に1回開催している（パルシステム神奈川に加入していなくても参加可能）。
- 麻生センターを始め、区役所や地域包括支援センター、生活支援コーディネーター、ボランティアなど、様々な人ができることを持ち寄り、運営している。



雀荘より卓が多い?「ゆっくり健康マージャン」

解決したい課題

- 地域課題としていろいろなものが取り上げられている中、組合員の生活を良くするには、地域も良くする必要があります。

実現したい未来

- 高齢者も子育て世代も気軽に集まり、多世代が交流できる居場所を地域に広げる。
- 居場所に来られなくなった人を支援者につなげる仕組みを作る。

INTERVIEW

1. 取組の始まり、きっかけ

麻生センターで認知症サポーター養成講座を開催したことをきっかけに、地域との接点が生まれました。複数回講座を開催していく中で、「空いている会議室を使って居場所づくりをしたい。」と区役所の認知症地域支援推進員の方に相談しまして、その方や地域包括支援センター、生活支援コーディネーターさんなど、いろいろな方からアドバイスをいただきました。「認知症カフェ」だと敷居が高く感じる人もいそうで、誰もが気軽に立ち寄れるよう、「みんなでゆっくりCAFE♪」と名付けました。

2. 取組への想い

組合員の生活を良くするには、地域全体が良くなければならないと考えています。

運営には、区役所や地域の支援者、ボランティアなど、様々な人に関わっていただいているので、できる限り多職種で作ることを目標に、それぞれができることを持ち寄って、毎回いろいろな企画を実施しています。組合員でなくても参加が可能で、広報もお手伝いいただいている方々を通じて行っているため、参加者の多くは未組合員です。この

場では営業はせず、あくまでパルシステムは地域の人に楽しんでもらう箱であると考えています。

3. 取組から得られるメリット

この場を通じて、日頃接する機会のない方たちから地域の課題を聞くことができます。その課題とパルシステムが取り組んでいる事業や活動をどうリンクさせ、新しい事業を作っていくか。この取組から得られる財産だと思っています。

4. 今後、進めていきたいこと

今も気になる方がいれば地域包括支援センターの方に情報は共有していますが、ここに来られなくなった人を次の支援につなげる仕組みをどう作れるかということが一つです。

もう一つは、高齢者も子育て世代も気軽に集まり、多世代が交流できる居場所を作ることです。高齢者が地域の歴史を語り、話を聞いた若い世代が地域に愛着を持つことで地域に貢献したいと思う人が増えるといいなと思っています。大学生にもこの取組に参加してもらい、地域に根差した活動をしていることを知ってもらいたいですね。

話し手【取材日：令和7年10月22日】

- 三井 俊成 さん（パルシステム神奈川組織運営課 担当課長）
- 神田 賢一 さん（パルシステム神奈川麻生センター センター長）